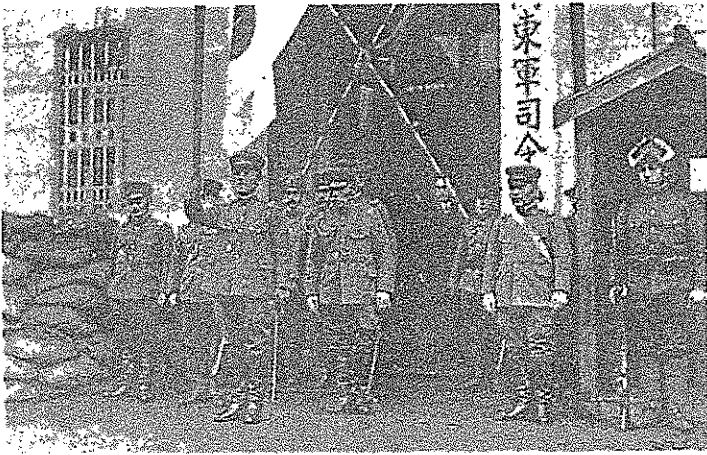


9/17
あす

安倍晋三政権が戦争法案の成立を狙うなか、84年前に「15年戦争」の発端となった「満州事変」が勃発した9月18日を迎えます。日本軍の謀略と独走によって中国東北部への侵略戦争が開始された日を前に、同法案の採決強行を狙うことは、歴史の教訓を省みない暴走といわなければなりません。



「満州国」の建国時に奉天の関東軍司令部前で聴衆にこたえる関東軍司令官ら＝1932年（『画報 日本近代の歴史』から）

日本軍の謀略・独走から中国侵略

歴史の教訓省みない戦争法案の暴走

あす「満州事変」84年

「満州事変」は1931年9月18日、奉天（現在の瀋陽）近郊・柳条湖での南満州鉄道（満鉄）の線路爆破事件をきっかけに日本の関東軍が起こしました。21日には日本の植民地であった朝鮮駐留の朝鮮軍も関東軍と謀って中国東北部に越境攻撃をしました。

内田満鉄総裁「我軍の計画的行動と外相に報告」（『日本外交年表並（一）並びに主要文書』）と断定して明記しています。政府は事態の不拡大の声明をしたものの、関東軍はそれを無視して軍事・交通の要地・錦州を空爆、北部満州の中心地ハルビンの占領によって主要都市を支配。32年3月1日に関東軍が実質支配する「満州国」を建国しました。

満鉄の爆破は「中国軍の行為」という宣伝とは逆に、関東軍によって早くから綿密に準備された謀略でした。外務省文書が「鉄道爆破事件を虚構して軍事行動開始」、「奉天林総領事、

級戦犯）にたいして、「関東軍の将兵は果敢神速」「勇猛力闘をもってその禍根を抜きて皇軍の威武を中外に宣揚せり、朕（ちん）深くその忠烈を嘉（よみ）す」と褒筆を称賛する勅語を出しました。

分断工作」が続きました。37年の盧溝橋事件で日中全面戦争を開始、南京大虐殺事件などの戦争犯罪を犯しました。中国との戦争の泥沼化から抜け出すために軍事資源を求めてアジア・太平洋での侵略戦争へと突き進みました。

戦争の認識すら語れぬ安倍首相
安倍首相は戦後70年の「安倍談話」で、歴代内閣が認めてきた「植民地支配と侵略」への反省を認めない欺瞞（ぎまん）的な態度をとりました。「満州事変」にみる日本の戦争への認識すら語るこのできない安倍首相のもと、米軍指揮下の自衛隊の独走も内部文書で明らかになるなか、戦争法案を強行することが許されないことは、歴史の教訓からいっても明らかです。

（山沢猛）